

膳所市民ニュース

膳所市民ニュース
発行
平成4年3月25日発行
編集
膳所市民ニュース
編集委員会
(膳所公民館内)

学区内の世帯数・人口
平成4年3月現在
世帯数 6,711
人口 男 8,520
女 9,301
計 17,821

第13回 新春びわこ健康マラソン



一月二日、最低気温1.1度の寒冷の中を膳所公園一帯の湖岸で開かれた。新春の風を体いっぱい受けながら二千七百人が参加。時おり晴間ののぞく絶好のマラソンコンディション。六歳から八十九歳までの親子連れ、スポーツ少年団、海外からの留学生などの姿も目立った。

選手はラジオ体操で体をほぐしてスタート地点に集合。まず3.5kmの部がゆっくりとスタート。次いで10kmの部の選手たちが勢いよく飛び出した。

仮装マラソンに沸く沿道

金びかのずきんと羽織姿で80cmもある打ち出の小槌を手に力走した菅井茂さん。孫悟空と三蔵法師に扮した坂田さん夫妻は、それぞれ沿道の喝さいを浴びていた。

車いすで完走

3.5kmを一時間あまりでゴールインした小林顕一さん。先にゴールしていたところからチャレン(九つ)太陽くん(六つ)二人の温かい拍手でむかえられた。

ぜんざいの接待

膳所体育振興会の方たちの心づくしのぜんざいがゴールした選手に振る舞われた。前日の夜からあずきを煮込み、約二千人分のぜんざいを用意し参加者をよろこばせた。

春を呼ぶ火祭

葦たいまつ 渚を祓う

三月七日午後七時、膳所公園に大津市長のご臨席を仰ぎ20連発の花火を合図にボーイスカウトによってたいまつ60束に点火された。(種火は膳所神社で修祓式をすませて持ちかえたもの。)

陪膳ナベ

この行事は「湖辺ルネッサンス」大津葦作戦の一連の火祭で、水質汚濁で死滅しつつある葦をもう一度蘇生させようと、びわ湖周辺の堅田三ヶ所・真野・下阪本・雄琴・膳所にて去る二月二十三日葦刈りが行われ、膳所は60束のよしたいまつが作られた。火祭りには地元住民も参加し、点火された葦たいまつが明かりが渚に映え、びわ湖の安全・住民の無病息災・家内安全が祈願された。



おもものなべ



大きな鍋に昆布と鳥ガラでダシをとり、大き目に切った大根とあらかじめ皮をむいてゆでておいた頭イモとコンニャクと鳥肉を入れ、しょう油をベースにみりん、日本酒を入れ、強火で1~2時間程度たき、ダシが少なくなったら、水と日本酒を足して、弱火で充分材料に味がしみこむまで3時間程たく。煮立って来ると、アクが出るので小まめにアクをとり、味が薄ければダシの素を少し足す。

わぬ馳走に見物の人たちが湯気をおきおき楽しい和・輪・話の花を咲かせた。

地上にいっぱい鉄腕アトムを!

子どもたちが心豊かに育ってほしいという願いを、さる十一月十七日、栗津中学校体育館において、栗津ブロック学社連携推進委員会主催の講演会が開催されました。講師の木津川計、立命館大学教授は上方芸能編集長やNHK上方文化アラカルトなど多方面にご活躍中で、PTA・青少年健全育成関係者など400名の方が参加。

子供は文化を食べて育つ

子どもの教育はなかなかむづかしいもの、学力や、健康については親は関心をもち気を配るけれども、それだけで育つものではない。文化を食べながら育つものだ。子どもがどのような文化を食べながら成長するのか、文化が子どもにとってどんなに大切なものか、文化や教育の大切さについて、先生の戦争中の体験や漫才ブームといじめ、人口構成と大学紛争、偉大な数学者ガウスの少年期の話、俳句の解釈など豊富なユーモアあふれる軽妙な語り口で聴衆を魅了。



二十一世紀それは?

人類が体験したことのない食料・環境・気象・核等の問題が山積している大変な時代です。このときにこそ、ヒューマニズムを体現した聡明で困難に立ち向かう情熱と行動力をもったあの鉄腕アトムの活躍が期待されています。お父さんお母さん・地域の方・学校が一体となって「アトムのよう小学生・中学生・高校生・大学生・大人をつくりだしましょう」このことがわれわれの現在の大人の責任であると呼びかけられました。最後に鉄腕アトムの歌をうたって、盛大な拍手と笑いのうちに講演会は無事終了いたしました。



おめでとう...きらめき大津賞

受賞

清掃美化



奥村 治氏
膳所一丁目

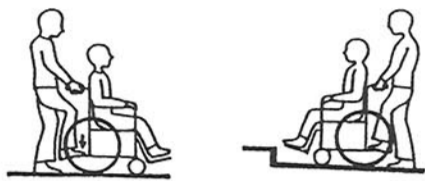
地域活動



青木節子氏
本丸町

長年にわたり婦人の健康づくりをはじめ、幅広く地域のまちづくり活動のリーダーとして活躍。

十六年間夫人と共に膳所城跡公園及び膳所神社境内等の清掃を行い、地域の環境美化に貢献。



ふれあいびわこマラソン

平成3年11月23日、若者が自分たちの夢をマラソンに託して企画。大津市民センターから南へ、びわこを見ながら走る5kmと25kmコースを設定した。

「今度のマラソンで湖畔を走るんや。車椅子の人も聴覚の人も走るんや。3歳の子、80歳の人も出るんやで...」
「そやねえ私も出よか」今さら前言はとりけせない。
「押したら、それやったら出る」元陸上部ではあるが最近陸に上がったトド、オフクロの車椅子は重く、とはいえずせーぜーハアハア。2.5kmを



白倉一路

折り返してもなく、泣きじゃくっている子供を引っぱって走っている母親に出会う。小3ぐらいであろうかかなりのオデブちゃん。「あとちょっとで折り返しや!!」と声をかける。「ガンバレー!!」、歩道からも声援あり。
「寒くない?」「ううん膝かけもあるし大丈夫せーぜーいうてるけどだいたいどうぶ?」「ウン」なんとかヨレヨレのあの泣きみそ君が帰って来た。「オイッ最後や自分で走れ!!」なんと泣きみそ君、お母さんの手をひっぱってゴールイン。お母さんは泣いている、子供をしっかりと抱きしめて。「よかったようがんばったなあオメデトウ」
泣きみそ君がニコッと笑った。又あおうな来年も...
外へ出よう。参加しよう。
あなたのまわりにいいふれあいがいっぱい。人がふれあうと心が響きいい音が出る。

短歌

欄

芸

文

初春の心に沁むる喜びよ孫生れしを寿ぎくみかはす屠蘇
蘇 堀野 善彦
暮枯るる洲浜に寄する初春のさざ波と風ささやきあえる
浜田 直子
蠟梅は半ば陽に透け蜜蠟の鈴成りの花ややにうつむく
谷元 良子
竜の玉の瑠璃のはだえに空をゆく白雲らしき白宿り初
中野 和子
初春の陽に包まれておおらかに老の坂道又一つ越ゆ
西沢 すえ
水平線の果てはソ連と言いなれし教賀にて聞くソ連崩壊
河井まさ江
ぼんぼりは闇の樹間に潤みいて岩戸開きの古ごとうか
清水 静子
辛うじてあきらめは得て筆幾本丹念に洗う腰かばいつ
渡辺 操
つ
わすれにし幼の赤きモード履き土間の小さき発光体ぞ
小野みち子
またの名を女神のスリッパと教えられるパフィオ・ペディ
岡本 順子
甲津原の軒に干さるとちの実へはやも傾く日は赤か
大西 礼子
見捨てられしえんじの菊の一輪を活けて厨に明るさも
小林たまえ
どる
すすき穂の枯れわけたるこの絮もうすらに朱く初日
井上 治子
まとえり
日溜りを追うコリー二匹よりそいて紐のかぎりに位置
を交えゆく
竹内 次子
空の瑠璃あわせ鏡か湖の瑠璃宇宙へ映せし郷の夢々
松井 重義
三人目によくやく男児得たる婿手つきよろしくむつき
替えゆく
林 阿さ子
祖々も掛けけむ軸を床に掛け初春をほぎ屠蘇酌み交わす
堀池 たか
暮れなむむ比叡の山々藍ふかく無動寺谷の灯り瞬く
山上つる枝
真珠湾攻撃歴史の中に入れても我に焼きつく空襲下の壕
林 久子
うからやから集い来たりてことほぎを嫁へのべつつ芳をいたわる
青山 幸
菜園となせし休耕田に新年の賀詞かわしあうモンペの農婦
東 とし子
さわやかな目覚めに望む朝明けの緋色のなかに星ひとつあり
沢辺 美津
菜の花も桃も匂いぬ覚めやらぬ深き眠りの雛おごさん
藤代 久栄
沈丁の蕾ほころぶ陽だまりにワインレッドの春覗きいる
野口 幸子
金柑を煮る香の甘くりピンギに春のファッション雑誌
穂積 孝子
見ている
浮浪者のふいの欠伸につられおり現身の寅さん肩おとしゆく
近藤富士子
キッチンに味噌汁の香を嗅ぎているイタリア土産の小さきピノキオ
田先 礼子
百伝ふ岩根の山にはすみ出づる初日の朱をわが占とせむ
山本 晃子

守りましょう
くるま社会の
基本ルール
(春の交通安全運動スローガン)

Table with 4 columns: No., Name, Age, Address. Contains names like 杉浦孝一, 山元 丑太郎, etc.

膳所歴史資料室 春の展示
『山元春拳・足田春湖と膳所焼展』
生涯学習センター竣工を記念し、左記の日程で開室いたします。

さくら祭
いよいよ桜のシーズンが到来、今年度も観光協会主催による膳所の春の風物詩「さくらまつり」が開催されることとなりました。
日時 4月5日(日)
午後1時より
場所 膳所城跡公園
但し、雨天の場合は膳所市民センター
本号の特集として、四月オーブンの生涯学習センターについて取り上げてみました。本年度は、諸経費の値上げで発行回数が、三回になりました。来年度は年四回発行できるように予算措置ができました。充実した、親しまれる市民ニュースとするため、学区民の方々からの投稿をお待ちしています。